

発表案件

1 温泉等入浴施設の今後の運営に関する地域説明会の開催について

佐渡市が保有する温泉等入浴施設に関しまして、佐渡市における温泉施設としての統一見解、定義づけを行った上で、今後の運営方針を定めることとし、庁内にプロジェクトチームを設置して検討を進めてまいりました。

このたび、温泉等施設全体に係る方針案を定めましたので、利用者の皆さまや地域の皆さまへの説明会を10月18日から11月1日までの間、温泉等入浴施設のある7地区で、いずれも夜7時から開催いたします。少しでも多くの皆さまからご参加いただき、施設の継続運営や新しい活用等にご意見をいかしていきたいと考えています。

なお、日程や会場につきましては、本日7日に全戸配布するチラシのほか、佐渡市ホームページや、CNSの文字放送等でもお知らせいたしますので、ご確認ください。

2 新庁舎建設・整備計画の見直しに係る住民説明会の開催について

市役所の新庁舎建設については、「佐渡市新庁舎等建設・整備基本計画」を基にして、平成28年3月に「佐渡市新庁舎建設・整備工事基本設計」を作成しました。

しかし、工事費の削減や、将来の佐渡市の人口や職員数、庁舎のランニングコスト等を含めて、本庁舎をはじめ支所・サービスセンターのあり方や活用法、市民の利便性等の様々な検証を改めて行いました。その結果、『新庁舎の建設は取りやめ、現本庁舎を改修して可能な限り活用する』という計画に変更することにしたいと思っております。

つきましては、10月25日から11月25日にかけて、市内10か所でいずれも夜7時から説明会を開催致します。市民の皆さまのご参加をお願い致します。

なお、説明会の日程や会場につきましては、回覧板でのお知らせのほか、佐渡市ホームページや、CNSの文字放送等でもお知らせしますので、ご確認ください。

3 認知症フォーラムの開催について

佐渡市では、認知症になっても自分らしく暮らせる社会の実現を目指し、毎年「認知症フォーラム」を開催しています。

今年度のフォーラムでは、『「まだ若い」でなく、「ずっと若く」いるために』をテーマとして、栄養・運動・知識の面から認知症予防について考えます。

日程は、10月29日土曜日の午前11時30分から午後3時30分まで、会場は“トキのむら元気館”で行います。

内容は、①栄養面として、昨年度から取り組んでいるエクサドンプロジェクトの一つ、「エクサ丼アイデアコンテスト」の表彰式と、最優秀賞作品の試食会を行います。

②運動面としては、東京都荒川区の「ころぼん体操」をご紹介します。荒川区は、今期の介護保険料を東京都内で唯一引き下げていますが、これには有酸素運動である「ころぼん体

操」を継続して行うことによる健康寿命の延伸効果もあるとみられています。また、「ころばん体操」は、ボランティアによる運営であり、地域づくりを踏まえた良い活動事例として、リーダーの方からお話を伺いながら実演していただきます。

③知識面として、今年2月の認知症予防講演会でも大変好評をいただきました、認知症の権威である国立長寿医療研究センターの遠藤英俊センター長による、最新の認知症予防についてご講演いただきます。全国でも有名な国立長寿医療研究センターの先生のお話をうかがえるまたとない機会となっております。

このフォーラムは、申し込み不要、入場無料となっておりますので、ぜひ多くの皆さまの参加をお願いいたします。

4 総合防災訓練の開催について

平成28年度の佐渡市総合防災訓練を、11月6日日曜日の午前9時から午後0時30分の中に、両津港おんでこドームを会場として実施いたします。

今回の訓練は内閣府と共に実施します。内閣府では「津波防災の日」にあわせ、国と地方公共団体が連携して実施する地震・津波防災訓練を全国9つのエリアで実施しており、北陸エリアでは2回目、新潟県内では佐渡市が初の開催となります。内閣府との開催ということで、今回は、事前に、開催地の両津夷（訂正：湊）地区でワークショップを行い、居住地の危険性や避難場所について、あらかじめ検討したうえで、訓練当日、自主防衛（訂正：防災）組織ごとに避難訓練等を行う取り組みを進めております。

また、訓練後、参加機関の代表者で全体の反省会を行い、助言等も頂く予定となっております。市では定期的な訓練を通じ、関係機関との緊密な連携を構築するとともに、市民の防災意識の高揚を図り、災害時の被害を最小限に抑えることを目指します。

なお、会場周辺においては航空機及び車両を使用した訓練を実施します。お近くの皆さまにはご迷惑をおかけしますが、何とぞご協力のほどよろしく願います。

事前質問

○9月市議会において「合特債を使って新庁舎を建設すべき」という決議が過半数で可決された。二代表制からこの決議は市民の声とも言える重いものであるが、これに対する市長の考え方と、今の方針に変更は無いかを伺う

新庁舎の整備につきましては、これまでの検証の結果、現在の本庁舎を改修し、当面の間は本庁の一部の課を支所・行政サービスセンターに機能的に分散配置し、現状の庁舎を長く有効活用する計画で進めたいと考えています。

先日の市議会の決議につきましては、議会の意見が概ね半々に分かれているということがわかりました。過半数が新庁舎を建設すべきというご意見でしたが、この結果を真摯に受け止め、このあと開催する住民説明会において、新庁舎を建設しないことへの理解を求めていると思います。したがって、今後の方針に変更はございません。

○県知事選は4候補による選挙となり佐渡市民の多くが反対している世界最大の柏崎原発再稼働が争点の一つになっている。この点についてあらためて市長のスタンスを伺う

9月議会定例会でも答弁しましたが、佐渡は島国であり、風向き等で大規模な原発災害が発生した場合、その影響は飛散する範囲にもよりますが、島であり逃げ場所が無い隔離された環境の中での防災である現状を踏まえて考えれば、原発の再稼働は反対というスタンスはこれまでどおりです。

質疑応答

(1) 温泉等入浴施設の今後の運営に関する地域説明会の開催について

なし

(2) 新庁舎建設・整備計画の見直しに係る住民説明会の開催について

なし

(3) 認知症フォーラムの開催について

なし

(4) 総合防災訓練の開催について

記者

防災訓練で、大規模というのはわかるんですが、特徴・ポイントというのはどんなところがありますか。

防災危機管理主幹

ポイントとしては、ほぼ例年と同じような形態ですが、体験ができるということで、家族連れとかお子さん達も、起震車やはしご車とかも来ていますので、そういう体験をしながら防災についての関心を高めていくということで考えています。

記者

前も指摘したんですが、参加する幹部職員が訓練の途中、笑顔で笑ったりまた状況によってはタバコを吸っていたりそういうのがあってですね、こんなので大丈夫なのかなあとということがあってですね、そのあたりについてはないようにしていただきたいと思いますがいかがですか

市長

あくまでもこの防災訓練を実施するという事は、極力実際の発生時に近い環境や意識の中でやらなければならない訓練ですから、その辺については職員の意識も徹底して望みたいと考えています。

記者

津波避難訓練ですけども、市民が参加して行うということですか

防災危機管理主幹

その地区の自主防災会の方で、自主的に参加していただく形です。

記者

集落が中心となって避難場所まで避難する訓練を行うということですか。わかりました。

(5-1)事前質問 (庁舎整備計画)

記者

市長はですね、最初A案、B案、C案を出して、B案が一番良いという結論を出しましたよね。それが最終的に新庁舎無しで現庁舎が生きる結果になったことに関して、自分の考え方というか結果についてどういう思いですか

市長

これについては、9月の定例会の中でも連合審査や一般質問でも答えさせていただいておりますが、当初出させていただいたB案といわれるものにつきましては、従来の基本計画に全て準じた中で、どこまでコストを削れるか、その中でよりベターな計画に修正できるかということでも考えたものであります。その中で出てきたのは新庁舎を建てて現庁舎を壊すという事でございました。ただ、あくまでもベースが全て従来計画に則った中でのコストダウンの方法でございましたが、その中で議会の皆さんだけでなく市民の皆さんからも現庁舎を限りなく長く使うべきだという声、更には新庁舎を建てる必要があるのかという声をいただく中で、であれば、完全に従来計画のベースを変える、ゼロベースから考え直した中で最も目の前のコスト負担を防ぐという流れの中で現庁舎を1年でも長く活用し続けて、残念ながら分散配置ということにはなってしまいますが少なくとも既存のもの支所・サービスセンターを含めてトータル60数億規模の改修になっておりますし、その辺も含めてトータルコストで考えて変更させていただいたものであります。

記者

よりベターなものになっていると思いますか

市長

私としては思っております。試算の方法等については、“それはあくまでも推計に過ぎない”とかいろんなご意見もいただいておりますが、少なくとも現時点で庁舎を新しく建てる部分を取り止めるということは、その部分の原資を子育て等市民の必要なものに振り向けるということに模索したいというのも自分の中にございます。

記者

であれば、これだけ長い期間議会ともやってきた訳だけど、その中でまだ議会で過半数が“新庁舎建設すべき”という結果を出しているというのは市民も結構ねそういう考えが多いということですよ、それが本当にベターなことだったと思いますか

市長

議会ではほぼ半々です。11対10ということでありましたが、市民の皆さんから聞こえてくる声は、それぞれの立場の議員さんとか、私たちも含めてそれぞれの立場の見方によって聞こえてくる比率も変わるとは思いますが、市民の皆さんからも私の方にはほとんど“新庁舎

を建てる必要はない”という声も比率としてはかなり私の中に入ってきている。声としては圧倒的に多いのも事実でございますし、10か所説明にまわらせていただきますが、その中で必ずやご理解いただけるものと考えております。

(5-2)事前質問 (柏崎原発再稼働)

記者

原発反対という市長の立場はわかりましたけど、その中でどちらかというと、“条件さえ整えば再稼働に容認”という立場の森さんのところに応援に行ったというのはどういうことですか

市長

森候補自身が原発再稼働について“条件が整えば容認”という明言はしていないはずですが。そういう風に見られているのはあるかも知れませんが、“現状の検証等を踏まえた上で厳しい見地から考えます”ということまで森候補自体も止まっていると思いますし、森候補が原発イコール容認というふうには森候補の政策にも入っていません。そこは誤解なきよう考えていただければとおもいます。

記者

でも今までの森さんの態度とかからいけば、森さんはどちらかというと容認派で、米山さんがより慎重という態度かと思えますけど、であれば、軽はずみに森さんの所に応援に行くというのはどうかと思えますが

市長

それはあくまでも記者さんとしての考え方、見方の問題でありまして、断定できていない事に対してコメントする訳にはいきません。

記者

逆に森さんの所に応援に行った理由はどういうことですか、原発と言うことを争点にした場合の森さんと米山さんのスタンス、どちらか寄りかということに関してどちらでもないというお話だけでも、森さんの応援に行った理由を教えてください

市長

トータルの森さんがやろうとしていること、トータルの政策の内容、さらにこれまでの長い間の県の市長会長、全国市長会長としてのキャリア等を含めて、私もこの半年間やり取りさせていただいていますが、これまでよりも県と県内の自治体がこれまで以上に意思疎通、意見交換の場をかなり増やしていける、本当に忌憚のないやり取りをしながら今後懸案解消に向けても同一歩調をとっていける候補だという考え方から応援させていただいています。

記者

スタンスは森さんと言うことでいいですか

市長

実際街頭演説でも応援させてもらっていますので、ご覧のとおりと言うことです

記者

これは最近決めたんですか?最初はほとんどの市町村長が森さんの所に行っていたけども、

佐渡市長は保留をずっと続けていましたよね。検討中と言うことでしたよね。

市長

検討中とも何も答えていません。

記者

うちの会社と朝日新聞とでやったアンケートで、ほとんどの市長が色をハッキリさせた中に…

市長

それについては、どこの局とか新聞社に限らず、当時も秘書係とも話しましたがマニフェストも何も出ていない全てがハッキリしてない、候補者が全て出そろっていない中で、こういうタイミングでのアンケート等にはお答えすべきタイミングでも、お答えするつもりもないのでということで全部そういう回答をしました。

記者

いつ頃森さんに決めたのか

市長

それは候補者が出そろったのを確認してです

記者

森さんの公約を見て、比べて森さんを支援しようとした…

市長

公約もそうですし、これまでも森さんは新潟の市長会の会長でしたけど、同じ市長職で意見交換をして、半年間のお付き合いですけども森さんのこれまでのキャリア・実績に考え方に賛同したいという考え方になって応援しようと思った。

記者

どういったことを期待して支援されますか

市長

率直な政策も含めた懸案の解消への真正面からの忌憚のないやり取り、そういうのをちゃんとぶつけ合ったうえで、ではどういう方向に持っていくかというような具体的な部分まで一緒に意見交換しながら前を向いていけるタイプの方だということは以前から感じていました。

記者

市町村の連携と言うことで評価されていると言うことですか

市長

そこは大きいです

記者

政策面でなにか佐渡にとって期待したいこととか

市長

佐渡にとっての政策面の課題は皆さん取材してお分かりのとおりの部分ですが、空路問題だろうが航路問題だろうが産業の問題、その辺の所をどう優先順位を付けて、どこまで一緒に力を貸していただけるかという具体的なやり取りをしていただける可能性を持った候

補だという認識しているということです。

その他の質問

記者

また不祥事があったという話しですが

市長

事案としては、教育委員会関係で1つ、休日のことですが発生しております、それにつきましては本日教育委員会の方でその案件に関して会議を行いますので、その会議を踏まえた上でメディアの皆さんにも発表することになると思います。

記者

相変わらず職員不祥事が続くことに関してはどのように考えていますか

市長

誠に遺憾きわまりないことで、公務以外の休日、プライベートの時間とはいえ、公務員として更には社会人としてのモラルの問題ですし、これについて、このように続いていることは遺憾だと思っています。そのため、先日行いました庁議でも各管理職の皆さんにそれぞれの部門、外部に駐在している職員も含めて全て基本フェイストゥフェイスでもう一回注意を喚起してくれ、注意喚起を促してくれということを示しておりますし、これがこれ以上続かないように注意喚起及び意識付けの部分で、来週以降もいくつか訓示等々も含めて考えているところでございます。

~~~~~

記者

4月から公用車の事故が5月6月と続いてですね、その後もたぶんあるんだろうと思うんですが、今回こういうような職員が万引きしましたよね先月ね、そうなるそうですね最初の事故があった段階くらいで職員が意識をしっかりと持つべきだと思うんですけど、そのために三浦市長が登場したと思っている市民が多いです。そこら辺については訓示だけでなく、起きないようにするにはどうするか…

市長

最初にご指摘あった事故とかでいうと、こちらの不注意による事故もいくつもあったのも事実、大きい小さいは別にして、ある意味やむを得ない意味の事故というのもなくはしませんが、公務中の交通事故関連と、プライベートの時間の中での万引き案件等では同じ括りにはできないと思いますが、公務以外での部分については社会人としてのモラルの問題、その所をきっちり襟を正すということになりますし、公務の中での交通事故等については業務中における緊張感の促進と、別途指導の仕方、注意の仕方についても、全く同じではなく別の指導・注意の仕方になるとは考えています。

記者

発表された中でいうと5月佐渡市100%過失割合って出てますよね69,044円。次の6月も100%佐渡市が悪いということで104,544円、これを考えるとやむを得な

いと言えない状況

市長

いやいや、ほとんどは過失です、一部と言わせてもらっています

~~~~~

記者

赤泊と寺泊の航路についてお伺いしたいんですけども、今期 10 月 2 日で運航が終了しまして、乗客数が約 2 万人だということですけども、この数について市長の受け止めを

市長

佐渡汽船さんが想定していた年間の目標に達していないということは重々認識していますし、数字的に見ると寂しい状況であると思います。

記者

この航路の意義っていうのは市長はどのように考えていらっしゃいますか

市長

両泊間というのは一番距離的にも近いところを結んでいる航路でございますし、これまでも長い間関連を持って元々はフェリーも走っていたりという航路でございます。それについて歴史ある航路という認識はありますが、現状をふまえて将来的な部分についてはいろんな見知からもう 1 回分析・検討する必要があるかと思っています。

記者

佐渡汽船側は更なる支援を行政に求めていますけれどもそれについてはいかがですか

市長

それは、両泊まり航路という問題ではなくですね、3 航路抱えている訳ですからそのトータルの考えの中で佐渡汽船さん、そして新潟県、佐渡市この 3 者が今後については同じ素地に乗った中で協議してどう改善していくか、次善の策を模索していくかということだと思います。

~~~~~

記者

保育園の統合について、3 園が統合するということで新保の保護者からは残して欲しいという話しているんですけど、市長のお考えは、なるべく遅らせて欲しいという意見がありますけど

市長

来年度の募集開始の時期もありますし、基本 3 園統合という前提でこれまでも組み立てて庁舎も建ててきた訳でございます。これまでの新保地区での住民及び保護者の皆さんへの説明を長い間やってきた中で説明が尽くせていたかという部分は多少なりあるかと思いますが、基本的には来年度から新しい保育園へ一緒にはいついていただけるように今後も理解を求めて説明を尽くすしかないと思っています。

記者

今のところ変更はないということ



市長

はい

記者

住民の方々はそれまでの説明があまり良くなかったというなかで、3月に議会で議決されてこれまで来ていますが

市長

本当の詳細の説明会そのものに私が出ていたわけではないので、詳細については私自身把握しているわけではありませんが、そういう声が出るっていうことは100%完璧な説明を尽くしたとはなっていないんだと思いますが、その説明に当たっても受け取り方とかございますので、まだ理解を得ていない誤解を生んでいた部分があるのであればその部分を更に説明して理解を得る努力を続けるしかないと思います。

~~~~~

記者

市民の憩いの場である温泉はどんどん無くなっていくは、庁舎は建てないは、三浦市政になってからどんどん市民の憩いの場が無くなっていることについてはどう思いますか

市長

温泉については何カ所か存続を努力するつもりでやっているんで、無くす方向ではありませんので誤解のないように

記者

補助を無くしてやっていける体力のある民間は無いですよ

市長

今までのような運営補助という形態ではなく、別の支援策を提示して継続を努力するというのを議会でも説明させていただいているわけで、単純に今までの燃料費の補助という形ではなく別の形でということでもありますので温泉を無くす為に動いているということではありませんので誤解なきようお願いいたします。

記者

言いたいのは、採算面だけを考えてどんどん効率化していくと、市民は三浦市長にお願いしたのはそういう事をお願いしたわけではないと思うので

市長

ですから、庁舎のコスト面での庁舎建設取りやめとそれ以外の温泉等々、子育て支援・高齢者福祉への市民への対応をいう部分は全く別の話で、庁舎の部分は市民の憩いの場ということとは違うと思いますので、それぞれのものによって考え方は変わる

記者

庁舎は憩いの場の意味はありますよ。市民だって全課揃った金井に来れば用が足りるのと、教育委員会は畑野へ行ったら両津へ帰るどこへ行けば良いのかわからないような転々としたのとは

市長

それは申し訳ないですけど、例えば市民の皆さんにとって金井へ行かなければ全て解決し

ないかというよりも、近場の支所・サービスセンターでやれる範囲を広げるということも大事な住民サービスだと思っておりますし

記者

それはそうですけど課が分散するということを言っているわけ

市長

実際現状でも分散しているわけですし

記者

それが新庁舎になれば分散しなくて済むわけでしょ

市長

そこは分散しないのがベターかも知れませんが、それはスペースの問題でやむなく一部分散配置と

記者

だから採算面ばかり先へ行ってその辺が不便だったりしていくわけですよ、市民にとっては

市長

それは市民の皆さんのご意見も含めて、より市民の皆さんが必要としている部分を考えていきたいということでございます。

記者

だけど、市民の意見が、市議会が半分だから、庁舎建設してほしいと言っているわけですよ。佐渡市民もそういう声が多いわけですよ

市長

それは市民の皆さんから実際いろいろ聞いて

記者

だけどこれは報告会でしょ、決まりましたっていう報告会じゃないですか

市長

それを前提に説明させていただきます。

記者

市民無視だということになっちゃう

市長

私は市民無視の考え方で今回決めさせていただいたとは全く思っておりません。

~~~~~

記者

小さいことなんですけど、市役所へ電話すると職員の声が小さいっていうのがかなり多いですよ。そういうとムカッとした言い方が突然ちゃんと聞こえるって言うんですよ。これは反省すべき点があるのではないかと思います、副市長はどのような職員指導をしているんですか

伊藤副市長

お客様対応というのは大変大事でありますし、確かに市役所職員の電話対応・お客様の応

対について、市民の皆さまからの苦情というか苦言をいただく事も今まで何度かありました。その辺の職員指導というか研修を更に充実させたいと思っております、まだ計画の段階で具体的に申しあげられませんが電話の応対ですとか具体的なお客様にわかりやすく親切な対応をするという研修を計画していますので、その辺をしっかりと進めてサービス向上に努めてまいりたいと思っております。

記者

職員研修って結構今までやってるんですよね、それでもなかなか成果が出ないというのをですね、私ら見ていて玄関入って来ると対応する右側の職員は対応良いんですけど、それ以外はそうに感じないんですよ。だから研修ばかりやってなくてもっときつく指導したら良いんじゃないですか

伊藤副市長

今までもいろいろな研修は進めてまいりましたが、わりと座学が中心という傾向が強かったようですので、今度実践編というか対応のやり取りの研修とか、実践的なものを含めた研修を今後やっていきたいと、ちょっと今までとは少しやり方を変えて、座って学ぶとか聞いて学ぶではなくて、実際に人前でやってみるとかそういったものを含めた研修をやっていきたい

記者

でも今日すぐに職員に文書か何かで連絡すれば、答えは出るものですよ。職員に注意喚起を促すことを会見が終わったらすぐやるんですよ。すぐ一般市民が来たら持たないですよ、そんな研修研修といつやるかわからないものよりも、直接市民が足苦しい中でですね足運んでくるわけですからねもうチョット真剣に受け止めた方が良いと思いますね

伊藤副市長

ご指摘いただきましたことについても、研修とは別に文書とか連絡の中でしっかりとやっていきたいと考えています。